

御 礼 状

震災以降、陸前高田市の一日も早い復興を願ひ、ご支援をいただいていることに対し、心より感謝申し上げます。

東日本大震災により、本市では多くの尊い生命や貴重な財産を失うとともに、市街地をはじめ市内各地で壊滅的な被害を受けましたが、これまでに、全国各地のたくさんの皆様から温かいご支援を賜り、震災から七年目を迎え、高台移転による住宅再建や災害公営住宅の建設など、少しずつですが復興の姿が見えてまいりました。新たな中心市街地が形成されるかさ上げ地では、商業の拠点となる市立図書館を併設した大型商業施設「アバッセたかた」がオープンし、併設の市立図書館も開館を迎えるなど、なりわいの再生に向けて、商業エリアの事業進捗を図っているところであります。

しかしながら、災害復旧・災害復興には、多くの課題が山積し、市民が安心して暮らせるまちづくりを進めるためには、まだまだ多くのご支援が必要と感じているところであります。

今後におきましても、皆様のお気持ちに応えられるよう、市民一丸となり一日も早い復興を目指し懸命に邁進する所存であります。

今回のご支援に改めて感謝申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念申し上げまして御礼とさせていただきます。

平成二十九年八月

岩手県陸前高田市長 戸羽 太

災害復興寄附金領収書

No.1-638

住所

静岡県掛川市上西郷2530-6

氏名

協働力遠州

様

金額 6,2000 円

上記正に領収いたしました。

ただし、災害復興寄附金として

平成29年8月21日

陸前高田市長 戸羽

太

(たいへんありがとうございました。)



支援の継続にも意欲

静岡の大学
生らが訪問

物産展催し市へ益金寄付

陸前高田



静岡県の大学生や高校生らが18、21日までに、陸前高田市などの被災地を訪れ、支援活動を通じて住民らと交流を深めた。20日には同市気仙町の一本松茶屋で静岡県産の緑茶をはじめとした物産展を開き、益金6万2000円は市に全額寄付。関係者は「復興は道半ば」と継続的な支援への意欲もみせる。

今回は、常葉大学の学生13人、掛川工業高校の高校生3人を含む24人が訪問。19日には、宮古市の宮古工業高校で生徒らと被災などに関して懇談した。20日は一本松茶屋で物産展を催した。静岡県内の企業合わせて27社から自社製品の提供を受けるなど協力を受けて継続しているもので、販売ブースには緑茶入りペットボトルや深煎(い)り茶のティーバッグ、茶菓子など日本一のお茶どころならではの商品が数多く並んだ。

女子学生らは、かすりの着物に茜(あかね)のだすき姿の「茶娘」に扮(ふん)し、来店者らに紙コップで深煎り茶を提供。地元「北限の茶を守る気仙茶の

は震災直後から東北被災地への物心両面の支援を手がけ、防災意識の向上や被災地住民との交流を狙いに、地元

の大学、高校生も含め連携した活動も展開している。

今回は、常葉大学の学生13人、掛川工業高校の高校生3人を含む24人が訪問。19日には、宮古市の宮古工業高校で生徒らと被災などに

関して懇談した。20日は一本松茶屋で物産展を催した。静岡県内の企業合わせて27社から自社製品の提供を受けるなど協力を受けて継続しているもので、販売ブースには緑茶入りペットボトルや深煎(い)り茶のティーバッグ、茶菓子など日本一のお茶どころならではの商品が数多く並んだ。

「川の自然と人」奥深く

森の達人(スター)講座

住 田

住田町の「目指せ! 森の達人(マイスター)講座」は20日、世田米の種山ヶ原森林公園で開かれた。参加者は川と地形の関連性や、人工的な整備が及ぼす環境面への影響などに理解を深めた。

同講座は、一般を対象に自然の素晴らしさを楽しみながら学んでもらおうと企画し、本年度4回目の開催。この日は「川の自然と人編」として開催し、町内外から35人が参加した。講師は、一般社団法人・生態系総合研究所(小松正之代表理事)による気仙川・広田湾プロジェクト「森川海と人」で調査リーダーを務める望月賢二氏。自然界における水循環からみた川の役割や、水の流れが地形をつくるメカニズムを説明した。

気仙川下流部に位置する陸前高田市内の河道変遷にも言及。平野部は、1万年前の海面上昇に伴い気仙川水系からの土砂が堆積して形づくられたとし、「川が海と出合っ

